

誇り持ち「呼称運転」

新潟陸運 安全への姿勢深化

【新潟】新潟陸運（土岐賢夫社長、新潟市東区）は13、19日の2日間、新年研修会を開催した。2019

年度は「プライドを持つ」を経営方針に掲げ、これまでも築き上げてきた安全に対する姿勢を更に深化させる。特に「呼称運転は誇りを持つて励行、徹底するよ

う土岐社長が呼び掛けた。19日には全員による社



「18年度はいくつか待遇改善に着手した」と土岐社長

是、社訓の唱和後、土岐氏が「18年度はいくつか待遇改善に着手した。これが可能になったのは、皆さんが事故防止で顕著な成果を上げてくれたことが大きい。18年度経営方針『自分を変

える』の下、色々考えながら仕事に当たってもらったお陰」と評価。

その上で、今年度の経営方針に触れ、「プロドライバーとしての心遣いがプライドにつながる。指差呼称を運転時にも実践できているトラック事業者は全国的にも少ないはず。ほかに、こども園での交通安全教室、多彩な社内レクリエーションなど直接、仕事に関わらない活動も多く展開している。同業他社ではあまりないかもしれないが、そういう会社に勤めていることを誇りに感じてくれるとありがたい。今後も共に歩んでいこう」と強調した。

安全対策管理室と品質管理部の代表者が18年度状況と19年度計画について発表。雇用促進、品質向上、事故防止、広報の各委員会からも、それぞれ取り組み

が報告された。併せて、部門別に従業員表彰を行った。

また、EIC保険エージエンシー顧客サービス部リスクコンサルティンググループの山田明洋課長が「事故発生のメカニズム」をテーマに講演。運転時に生じるイライラ、不安、焦りといった感情のストレスをコントロールする手法を指南した。

新潟日野自動車の大津浩史業務課長はタイヤ脱落事故の恐ろしさを説いた。

（河野元）